

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 茂田 忠良

研究課題		米国NSA、NGAを中心とするインテリジェンスの研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>インテリジェンス機関は、現代の国際政治において、軍隊、外交機関と並ぶ主要プレーヤーである。インテリジェンス活動は、科学技術の進化と共に発展し変容してきたが、現在は主として、ヒューミント、シグント、イミント、マシントの四つの分野で構成されている。その中でヒューミントは知られているが、シグント、イミント、マシントは極めて重要であるにも拘らず、余り知られていない。</p> <p>インテリジェンス活動は世界各国が行っているが、その中でも、米国は年間7兆円以上の予算と10万人を超える職員を擁する巨大インテリジェンス国家であり、他方、情報公開も進んでいる。そこで、米国のシグント・国家安全保障庁、イミント・国家地理空間諜報庁を中心とするインテリジェンス諸機関の実態について、入手可能な資料を基に研究した。</p>
	研究成果	<p>ウェブ上で入手できるデータ及び米国政府開示資料等を分析することにより、米国のシグント活動とイミント活動及びマシント活動について研究を行い、次の諸点について進展を見、その一部を出版物の形で公表し、或いは学会研究会で報告することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テロ対策におけるシグントの役割 ○ サイバーセキュリティ対策におけるシグントの役割 ○ 米国のマシント(計測・特徴諜報)、特に核爆弾とミサイルに対するインテリジェンス・システム、SOSUSなど潜水艦に対するインテリジェンス・システムの概要 ○ 米国のインテリジェンスに関わる秘密保全に貢献する制度の全貌 ○ 米国国家地理空間諜報庁のイミント・システムの全体像
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし。
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし。
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	<p>①雑誌投稿：茂田忠良単著『オサマ・ビンラディンを追え(上)』『現代警察』第156号、2018年4月25日、18～26頁</p> <p>②雑誌投稿：茂田忠良単著『オサマ・ビンラディンを追え(下)』『現代警察』第157号、2018年7月30日、36～41頁</p> <p>③研究会：茂田忠良『米国のマシントシステム』、警察政策学会・テロ安保部会、2018年4月20日、グランドアーク半蔵門</p> <p>④研究会：茂田忠良『米国のサイバーインテリジェンス～サイバー防衛の視点から～』、サイバーセキュリティ研究会、2018年11月10日、アルカディア市ヶ谷</p>